

協議事項12

「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善の取組状況について

「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善の取組状況について、次のとおり提案する。

令和8年7月24日提出

神戸市教育委員会事務局

事務局長 竹森 永敏

「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善の取組状況について

1. 2026 年度(令和8年度)の方針

今年度は、各学校において、これまで進めてきた授業改善の取組を基盤とし、児童生徒が自ら学びを調整し、他者と協働しながら課題解決に向かう授業づくりを一層推進する。

そのため、教育委員会事務局と学校が方向性を共有し、推進校での実践研究、サキドリ研究事業による教育課程の工夫を一体的に進めるとともに、指導主事による伴走支援を行いながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る。

2. 推進校における授業改善の実践

推進校では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させる授業づくりを先行的に実践し、公開授業と研究協議を通じて授業改善の視点を共有している。1学期は4校で公開授業等を実施し、延べ約 270 名の教員等が参加している。

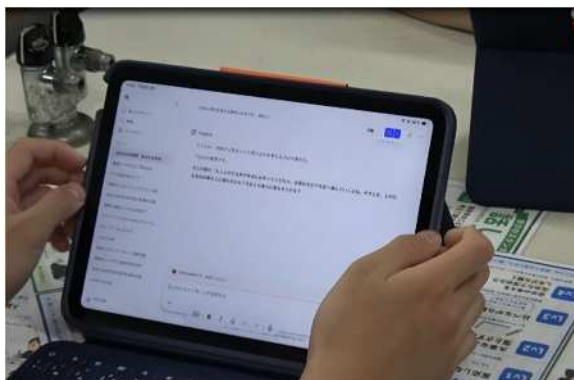
学校名	主な取組	公開授業(実施日・参加人数)
桜が丘小学校	児童が学び方を自己決定しながら主体的に学ぶ授業づくりを推進	6/23・約 100 名
有野北中学校	ICT 活用や自己選択を取り入れ、安心して考えを表現できる授業づくりを推進	6/30・13 名 7/15・20 名
雲雀丘中学校	対話・協働を基盤に、生成 AI を生徒の思考を深めるツールとして活用した授業づくりを推進	7/8・約 20 名
長田中学校	自己決定型学習や協働学習を探究学習の流れに位置付けた『長田モデル』による授業改善を推進	6/16・117 名

【雲雀丘中学校の取組例】

雲雀丘中学校では、生成 AI を単に答えを得るための手段としてではなく、生徒が自分の考えを整理したり、他者との対話を深めたりするための学習支援ツールとして活用している。

◆ 理科における活用

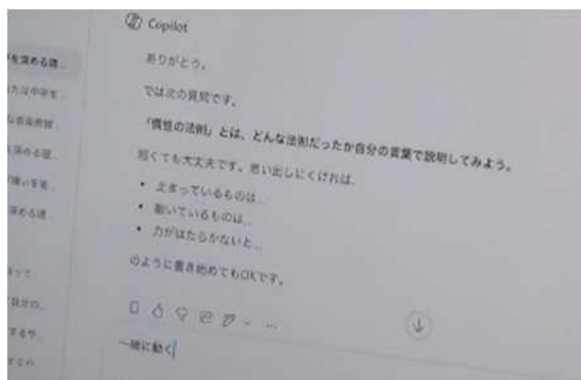
「左から右に等速直線運動をしている台車上に乗せたダルマを右から左に叩いた場合、『ダルマ落とし』は成功するか」という実験を題材に、慣性の法則を根拠とし、実験結果をもとに考察を深める授業を行った。



①実験結果について生成 AI とやり取りしながら、自分の考えを整理する。



②班で話し合い、実験結果の解釈や考察を深める。



③授業の振り返りにおいて、生成 AI の支援を受けながら自分の学びを言語化する。

◆ 音楽における活用

ギター演奏時の指の使い方を撮影し、生成 AI に分析させることで、生徒一人ひとりに応じた助言を得た。生徒はその助言を参考にしながら、自分の演奏を客観的に振り返る取組を行った。



①ギター演奏時の弦の押さえ方を撮影し、生成 AI から改善に向けた助言を受ける。



②手本動画を参照し、生成 AI の助言を踏まえながら個別に練習する。



③課題や難しかったことを振り返り、次回の見通しを持つ。

このように、生成 AI を活用することで、生徒が自分の学習状況を客観的に捉え、改善点を見いだしながら学びを進める姿が見られた。

推進校では、学び方の自己決定、ICT や生成 AI の活用、対話・協働を重視した授業づくり等を通じて、自校内で授業改善の取組が広がっている。あわせて、公開授業や研究協議を通じて実践の成果や課題を共有し、全市的な授業改善の推進につなげている。

3.「サキドリ研究事業」の指定校による取組状況について

(1)事業の目的

次期学習指導要領において検討されている「調整授業時数制度」を見据え、本市では文部科学省の「教育課程柔軟化サキドリ研究校事業」を活用し、今年度から小学校4校、中学校3校を指定して研究を進めている。

指定校では、学校の実情や児童生徒の実態に応じて教科ごとの授業時数を柔軟に調整し、生み出した時間を活用した特色ある教育活動を実践するとともに、その効果や課題の検証を進めている。

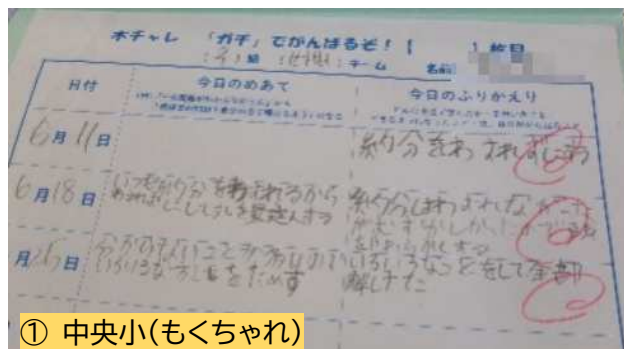
＜調整授業時数の主な活用方法＞

- 既存教科への上乗せ・・・教科等の理解を深めたり、個に応じた学習を充実させたりするために活用
- 子供の資質・能力育成に資する活動・・・探究的な学習、コミュニケーション能力の育成、自己調整学習、人間関係づくり等に活用
- 組織的な研究・研修等・・・授業改善や教育活動の質向上に向けた研究・研修、協議に活用

(2)指定校の取組状況

学校名	取組内容
中央小	進度別グループに分かれ、児童の習熟度に応じた算数の課題に取り組む「もくチャレ」を実施。
神戸祇園小	コミュニケーション能力の育成を目的とした SST(ソーシャルスキルトレーニング)や、児童の習熟度に応じて算数課題に取り組む「ともにんタイム」を実施。
蓮池小 (40 分授業)	プリント学習、読書、運動、個人探究などのテーマを週ごとに設定し、児童が関心や習熟度に応じて取り組む「探究タイム」を実施。
東舞子小 (40 分授業)	生活科・総合的な学習の時間を軸にした地域と協働した学習活動や、温かな人間関係づくり・コミュニケーション能力の育成に向けた活動を実施。
有野北中 (45 分授業)	7時間目を「ありのきタイム」と称し、45 分授業を6時間行う教育課程を展開。教科横断的な発表活動や、生徒が活動場所・内容・教材等を選択して計画的に進める学習活動(デジタルドリルによる個別学習、生成 AI を活用した探究学習)を実施。
長田中	生徒が探究課題を自ら選択・決定し、探究的な手法を用いて自律的に学習するスキルを身に付ける学習活動を実施。複数教科の学習を自ら計画・調整しながら進める自由進度学習を実施。
井吹台中	個人や異学年合同グループによる探究活動、心理的安全性を高める学級づくり(生徒主体のクラス合唱等)、学習を振り返り、学習方略を改善・試行する活動を実施。

※教員の組織的な研究・研修等は、神戸祇園小、蓮池小、有野北中、長田中で設定。



① 中央小(もくチャレ)



②神戸祇園小(ともにんタイム)



①「めあて」と「振り返り」を通して、自分の学びを調整しています。

②自分に合った課題を選択。苦手な児童には専科担当も加わり、少人数で丁寧に支援しています。

③プリントやデジタルドリルなどから課題を選択。週によっては運動や読書にも取り組みます。



④ 自己決定:様々な体験課題の中から選択し、取り組む様子



⑤ICTで他者参照しながら、自分の考えをまとめている様子

⑤学年フロアのオープンスペースで協働的に学習している様子

4. 2学期以降の方向性

2学期以降は、推進校やサキドリ研究事業指定校における実践をさらに深めるとともに、公開授業や研究協議を通じて、授業改善の視点や具体的な実践事例を市内各校へ共有していく。また、先進校視察で得られた知見も踏まえ、児童生徒が自ら学びを調整し、他者と協働しながら課題解決に向かう授業づくりが各学校で進むよう、指導主事による伴走支援を継続する。これらの取組を通じて、授業改善を一層推進していく。